

史料「故 Jo. Ad. クルムス博士の手稿  
からの抜粋」

石田 純郎

筆者は一九九六年に二度、ポーランドのグダンスクに赴き、国立グダンスク公文書館で「故 Jo. Ad. クルムス博士の手稿からの抜粋」を入手した。

ダンチツヒのギムナジウムの記録簿に挿入されていた六頁の書類である。これはクルムスが自筆した書類をギムナジウムの職員が転記したもので、記録のタイトル全文は「故 Jo. Ad. クルムス博士の手稿『医学博士にて正教授の J・A・クルムスにより、出来事の記録のために書かれた、一七二五年以降のダンチツヒ・ギムナジウムにおける特別な事柄の私的日誌』からの抜粋」である。文中にしばしば「私、クルムス」と記されている。

一七二五年はクルムスがギムナジウムの教授に就任した年であり、彼の就任のいきさつからこの記録は始まり、翌年八月末までのギムナジウムでの出来事が具体的にこまごまと記録されている。ラテン語混じりのドイツ語で書かれた記録の複写を、岡山大学文学部の高橋輝和教授に解読いただいた。この史料原文とその日本語の翻訳を示す。

## 翻訳一頁

一七二五年と一七二六年への追加

故 Jo. Ad. クルムス博士の手稿『医学博士にて正教授の J・A・クルムスにより、出来事の記録のために書かれた、一七二五年以降のダンチツヒ・ギムナジウムにおける特別な事柄に関する私的日誌』からの抜粋

五月二三日に私 J・A・クルムスは、ダンチツヒ市の尊敬すべき高貴な参事会によつて、同地の学術ギムナジウムの医学と自然科学の教授に、三六歳の時に、一三年間空席であった、私のかつての師、Jo. グロゼンヤイエル (Glöseneyer) 博士のポストに任命された。

六月二八日に紹介式が、通常の厳かさをもつてなされた。私のために、講座をアービヒト (Abicht) 博士殿が学長として、「ギムナジウムにおける自然哲学の利益について」という講演でもつて開講した。この後、私は「自然哲学と将来の自然科学との結合について」という講演を行なった。

紹介式の終了後、私は最後に私の前に紹介されたホーハイゼル (Hoheser) 教授殿に楽団長に関して、紹介式の際の音楽のために、尊敬すべき高貴な参事会によつて彼に支払われた二〇帝国ターレル以上にさらに私から謝礼を要求していると聞いたので、前述の教授が彼にそのようなものを与えたかどうか、それはいかほどであったか、尋ねた。しかし彼は知らなかった(訳註…ここで途切れている)。

七月六日に私は気高い教授団によって同僚として受け入れられた。その儀式の際には次の事柄を誓った。

- 一、教授団の中で述べられる意見を外に洩らさないこと
- 二、複数の意見を承認すること
- 三、ギムナジウムを発展させ、かつ教授団メンバの名譽を続けること

私の就任の際の授業：

当時はただ六人の教授しかいなかった。パウル・パーテル、マテゼオス (Paul Pater, Matheseos)、員外教授は少し前に死亡していた。

I	八・九年生
月	午前 七―八時 欠
	八―九時 Dr. Willenberg 食糧品の歴史学
	九―一〇時 Dr. Abicht 列王紀(?)の神学
	午後 二―三時 Prof. Hohseisel ヘブライ学
	三―四時 Prof. Sartorius 雄弁について
火	朝 七―八時 私 Dr. Kuhnus 守られるべき健康に

関する医学

残りの時間の授業は、月曜日の朝と午後と同様であった。

水	午前 七―八時 私 Dr. Kuhnus 自然学
	八―九時 Prof. Schelgwig 哲学
	九―一〇時 Dr. Abicht 神学論争
木	午前 七―八時 目下 欠
	八―九時 Prof. Sartorius 雄弁について
	九―一〇時 Prof. Schelgwig 哲学的な事柄
	午後 二―三時 目下 欠
	三―四時 Prof. Hohseisel ギリシア学
	翻訳二頁
金	午前 七―八時 目下 欠
	八―九時 Dr. Willenberg 法律学補講
	九―一〇時 私 Dr. Kuhnus 自然学
	午後 二―三時 欠
	三―四時 Prof. Hohseisel ギリシア学
土	午前 七―八時 Dr. Willenberg 法律学補講
	八―九時 Prof. Schelgwig 哲学
II	六・七年生
月	火の午前七―八時 Waschetta ポーランド学論究

註：月は少なくとも私の希望によるが、しかし必要性からではない。

- 八一九時 私 Dr. Kulmus 自然学  
 九一〇時 Prof. Sartorius オヴィディウス  
 (ローマの詩人)  
 二一三時 Prof. Schelgwig 論理学  
 三一四時 Prof. Hoheisel ギリシア学  
 七七八時 Prof. Hoheisel ヘブライ学  
 八一一〇時 Prof. Sartorius 宿題訂正  
 七七八時 Waschetta ポーランド学  
 八一九時 Dr. Willenberg 歴史学  
 九一〇時 Prof. Sartorius 修辭学  
 二一三時 Prof. Schelgwig 論理学  
 三一四時 Dr. Abicht 神学  
 七七八時 Waschetta ポーランド学  
 八一九時 Prof. Schelgwig 論理学  
 九一〇時 Prof. Sartorius キケロの演説  
 二一三時 Prof. Hoheisel ヘブライ学  
 三一四時 Dr. Abicht 神学  
 七一九時 Prof. Sartorius 宿題訂正  
 九一〇時 Dr. Willenberg 歴史学

一七二五年

八月二二日に六・七年生の公開試験が午前八時から一二時

までであった。立ち会った紳士たちと気高い修道院付属学校長のメンバーは以下の人たちであった。目下、城伯で図書館長の Albr. グロデック (Groddeck) 氏、修道院付属学校長会長の Gabr. von. ベーメルン (Bömeln) 氏、修道院付属学校長の Jo. Sigm. フェルベル (Ferber) 氏、市参事会出身の修道院付属学校長シュミーデン (Schmieden) 氏とエンゲレ (Engelle) 氏、コッゲン市区長のヴォルスト (Wolst) 氏、ホーエン市区の貴族のホーゼンベルク (Hosenberg) 氏。欠席者は以下の人たちであった。法律顧問の H. ホーゼンベルク (Hosenberg) 氏、フライテン市区長の Jac. フォッケン (Focken) 氏、ジツチェル市区の高級官吏の Andr. ハーナン (Hanau) 氏。

注意・六・七年生のこの試験には後援者の方々が、学長と教授たちの名前で招待される。しかし教授の方々はただ学長の名前によって、召使を通じて招待される。

八月二二日にはギムナジウムの四・五年生、三年生、二年生の試験があった。この試験には後援者の方々は学長と教授たちの名前で招待されるべきである。しかし教授の方々は学長と教師たちの名前で、それも最下級の教師または同僚を通じて招待される。今回は最年長の教師ペトロゼリヌス (Petroselinus) は、自らの気紛れから、後援者の方々をも

## 翻訳三頁

学長と教師たちの名前で招待することを命じておいた。このことに関して彼が教授の方々から、非難されたのは当然であった。

下のクラスの教師たちは以下のとおりであった。

四・五年生のクラスは、ペトロゼリヌスとハンガリー人のハデマッシュ(Hademusch)、三年生のクラスは、教会の音楽指揮者でボンメルン人のチュッツァウ(Zitzau)、二年生はメスケ(Miske)。これらの人々の他にさらに書記のシュ……(人名)。彼は同時に生徒たちに計算とポーランド語の試験を行なった。

生徒たちは非常に少数であった。四・五年生は六人、三年生は四人、二年生は五人。

八月二三日に成績評価と移動があった。七年生は六つの腰掛けから三〇人、六年生は三つの腰掛けから一五人。

六年生のクラシンスキー(Krazinsky)は成績評価で次のような評価を得た：最も怠慢、最も手に負えない、故に学生牢に入れられるべき。しかし、彼は部屋から出て来るや否や、罰に従おうとせず、逃走した。それ故に不従順により除籍された。

移動させられるべき者たちは彼らの今までの序列によって

呼び出されたのではない。

八・九学年への移動の確実な前提条件は次の通りである。

一、年長になること  
二、体格の大きさ

三、他の級友たちが、喜んで辱められ得る厚かましき

四、年令増加と結合した甚だしい怠惰

ヴェルザー(Weser)という名の音楽に熟練したある者は妻を娶ろうと前から考えていたが、彼の婚約者が第二の男と結婚することを拒絶した時に、五番目の条件が二、三年前に付け加わった。

一〇月一二日にザルトリウス教授殿は、一年前から管理していた国庫に関する会計をアービヒト博士殿と私クルムスの面前で引き渡した。ヴィレンベルク氏とシェルクヴィツヒ氏とホーハイゼル氏は不在であった。それ故に、後任者の選出は延期されたままであった。

一〇月一六日に学長殿はこのことに関し、次のような紙によって小箱を用いて意見を集めた。

我々の同僚ザルトリウス教授殿が引き渡した会計は計算済みであるが、新しい管理者は、何人かの同僚諸氏の不在のために、任命され得なかった。故に私は、国庫の管理を行なう他の誰かを投票によって選ぶよう、極めて名望のある同僚諸氏に求める。私自身は投票を保留する。

J・B・アービヒト博士  
私が投票を保留する理由はさほど重要ではないにしても、私には、さほど些細なことではない。

S・F・ヴィレンベルク博士  
私は視学官殿に投票する。

J・A・クルムス博士  
私は尊敬すべき学長殿が国庫の管理を引き受けるよう、彼を特に推薦する。

J・O・ザルトリウス  
極めて熟達した視学官たる、極めて名望のある同僚殿をたぬらわせた、投票権を保留するその理由はかなり重要であつて、私の推測する限り、この問題は前任者に対する全く実際的な審理の中から解決されるべきであろう。教授団のメンバー三人が不在であつても、二人のメンバーによつて、国庫と第三者からの学術補助金に関する会計は監査され、教授団の名において同意をもつて承認されたことが出来るのか否か。しかし私はいさ

#### 翻訳四頁

さかなりとも不同意ではなく、同僚諸氏の中から指名された兩名の一人に私の投票権をもつて助力しないこともない。ことに私は、封印した文書でもつて、公の会合の厳かな日に私の投票を預けるであろう。誓約下で沈黙あるいは保留の理由が数え上げられるまで、今度は私がその公表を保留するで

あろう。

シエルヴィヒ  
極めて熟達した視学官殿にC・L・ホーハイゼルは投票する。

従つて教授諸氏の二、三人は全く投票しなかつたので、次の紙が一〇月二三日に再度回されて、下のように投票された保留した投票の他に、私は次のことを述べたい。新任の教授である私やホーハイゼル殿に国庫の管理が委ねられたので、それをクルムス教授殿に任せるべきであると考える。

J・B・アービヒト博士  
かつてなされた管理に関する会計が正当に教授団によつて、あるいはその大部分のメンバーによつて承認される以前に、なぜ我々の国庫の新しい管理者について協議されるべきであるのか、私は未だに理解出来ない。このような事はかつて行なわれたためしがないのであつて、シエルヴィヒ閣下殿は聡明にも、今後このような事例が悪しき習慣とみなされることのないように、少数によつて多数が凌駕され得ることを忠告したのである。このような理由と、一、先任の管理者であつたシエルヴィヒ殿とホーハイゼル殿の会計が未だに処理済みの会計ではなく、彼らは、私の知る限り、それに関係する証拠書類を今なお自らの手許に持っていること、二、会計書類は昔からの通り、公の保管場所たる図書館にあるべきであつて、管理されてはならないこと、三、徴収された罰金は

我々の国庫の金であるのに、未だにそこへ納められていないことから、私は依然として投票を保留し、これらの事に關して私と共に徹底した管理を実施するよう、極めて名望のある同僚諸氏に親しく異義を申し立てる次第である。

J・F・ヴィレンベルク

監査されるべき国庫会計における慣習は私の承知しないことであるが、これに關する意見の相違が生じた後では、私は熟達した視学官殿に投票したいと思う。

J・A・クルムス博士

ザルトリウス教授殿はまず投票に先んじて、私が聞いたような、極めて苦々しい言葉をシエルヴィヒ教授殿に加えてから、もう一度、学長殿に投票した。私はその紙自体をもうそれ以上目にしなかつたので、他の教授達の投票を全く把握しなかつた。(訳註・クルムスのコメント)

一〇月二十九日に学長殿は投票をまとめるために新しい紙を回送し、その中で全ての教授諸氏が小生を国庫の管理に当たらせる投票を協議した。

二月一日に六・七年生の公開成績判定があつた。その後、宮殿の居住者たちは、火と空気に注意するよう、そして祈りに熱心に通うように訓戒された。また、この冬中、教授の方々と下級の同僚たちが行なう、通例の宮殿への夜間訪問が再開された。この制度は、慣例通り、謝肉祭まで続け

られるべきであつた。しかし、私とホーハイゼル教授殿以外、教授の方々の誰一人として、この冬中この訪問に携わらなかつた。また、下級の同僚たちもほんの数回しか行かなかつた。

翻訳五頁

一七二六年

一月二十九日に教授団が学長によつて召集された。それは二、三の学生の間で、校舎でおきた混乱のためである。ヴィッテンベルグ博士殿とホーハイゼル教授殿は不在であつた。ボンメルンの騎士階級出身のヴェーゲルがディルゲルを訴えた。ディルゲルがヴェーゲルの眼を殴つて傷つけたからである。そのためにディルガーは、一日間、学生牢に入るよう申し渡された。ところが、アービヒトのお気にいりの学生であつたプフェニックが校舎内での暴行を理由として、視学官にしばらく前に、罰として入牢を申し渡されたけれども、アービヒトの黙認でその罰を受けずに済んだことを、ディルガーは引き合いに出し、従つて自分は都市貴族として、外国人よりも低く見られたくないと述べた。従つてもしもプフェニックが罰を受けたのであれば、彼も罰をのがれるつもりではなかつた。ところがプフェニックは罰せられなかつたので、彼も無事に切り抜けることができた。

二月二八日、キーケブツシュが尊敬すべき高貴な参事会の

許可を得て、「視覚的な偽り、すなわち数学の証明の阻止について」、公開討論を行なった。その理由は、彼が空席になっていた数学の教授職を願っていたからである。ところが確実な対立者である員外教授のハーナウが彼を非常に汚したので、キーケブツシユの願望は今回は水に流れた。この討論全体は非常に率直になされた。しかし、その中では、視覚的な偽りに関する言葉は一言も考えられなかった。

三月二八日に教授団が召集された。そこには事実ザルトリウス教授以外のすべてのメンバーが出席していた。理由は教会音楽指揮者の息子で新最上級生のツイーツァウが告発されたことであつた。彼は二、三日前に、公共の酒場で、その夜酔つ払つたので家に運んでやつたある商人から、金の指輪を指から抜き取り、その次の日にまさしく同じ商人フイリーツプセンから同じ酒場で懐中時計を奪つたが、その現行犯で取り押さえられ、その酒場から殴り出されたとのことであつた。このことに関して、すべての最上級生が、彼に対して敵対的になつて、彼と一緒に通学したくないと言い、事実その後、ホーハイゼル教授が講義をしていた時に、彼を講堂から放り出した。付属学校長会の会長が時計の盗みはほんの冗談でなされたのだとその商人が認めたという事を伝え、そして、裁判所で書き留められたこの陳述書が学生たちの前で読み上げられたにもかかわらず、学生たちにはツイーツァウが我慢な

らず、むしろまったく一緒に通学したくないと決心して、彼らに対してもあらゆる種類の誹謗を浴びせかけた。この集会で学生たちが彼に関して教授たちに文書でもって手渡した彼らの苦情は特に次の点であつた。

- 一、盗んだ時計と彼の公的な売節に関して彼の身に生じたことは、町中に知れ渡っている。
- 二、被告は金の指輪(複数)を所持していて、それらを売りに出したということを訴

#### 翻訳六頁

え人たちは確かな証人によつて証明することが出来る。

- 三、彼は悪しき行状、つまりミサの最中でもいかがわしき家に入りしていること、借金や巻き上げによつて、学生として振舞つていない。

四、定員枠外の外国の学生たちは次のように心配している、すなわち評判になつている学生に対する詐欺行為や窃盗行為が罰せられないならば、彼らの後援者たちは、外国の学生たちを同じように疑いの目で見る恐れがあり、そして彼らから特典を取り上げる恐れがある。

さて全教授団は事態をこれ以上荒げないことが得策だと思つたので、被告人の父親に対して、彼の息子を大学か他のギ

ムナジウムに送ることを勧めた。それに応じて父親は彼を海路ハンブルクに送った。

八月二二日 移動のための成績評価 序列二八番目のクラウゼが全然名前を呼び上げられなかった。彼は試験の時点にも、成績判定の時にも現われなかったからである。(訳註…この三行は後から余白に挿入記載されている)

八月中旬、進級がなされた二、三日後に、序列二〇番目のザルトリウスが請願書をもって教授団のところに個人的にやつて来た。その中で彼は以前の同級生たちと並んで自分の席を再び持ちたい(進級したい)と願った。さもなければ、別れの挨拶をするだろう(退学する)と。アービヒトは彼の意見表明を保留した。視学官のヴィレンベルクは彼の願い通りになることに同意した。特にその理由は、請願者の父親はX学校の教頭であつて、父親がそれ故に位を下げられてしまったほどの、そのようなしくじりを彼自身の息子が(再び)行なうと教師の父親にとつて不利になるであろうということであつた(原註…ヴィッテンベルクは進級判定の時に欠席していた。さもなければ教授団全員は彼の釈明を考慮したであろうに)。私は次のような意見書を書いた。

嘆願者が占めるべき席に関して、気高い教授団の共同判定による、かの決定は最近なされて、移動の際に公示されたのであるが、もしもこれが再び請願者の願望に応じて変えられ

るならば、それは我らの団体の名誉と権威を完全に捨てることになるのではないか。又同じく、後に残された他の者たちによつて、この例が再び同じ方法で、結論の中に引き入れられるのではないか(頼んだら、上げてもらえるのではないか、の意)と、私は恐れるであろう。それ故に、私はこのような道理に逆らつて彼の願望にそのまま同意することは出来ない。

ザルトリウス教授は、ヴィレンベルクの意思表示を正式に否定したとのことである。これについてこの二人はかなり議論を行なつた。他の教授たちは大部分、私のように忠告したとのことである。請願者は、従つて指定された席を放棄しないで、通学し続けた(落第した)。

——これ以上クルムスの日誌は続けられていない。



## 史料 1 頁

Ad a. 1725 et 1726.

Excerpta aus e. Msc. des seel. D. Jo. Ad. Kulmus:  
 Diarium privatum praecipuarum rerum in Athenaeo  
 Ged. ab Anno MDCCXXV gestorum memoriae  
 causa conscriptum ab J. A. Kulmo, Med. Doct. et Pr. P. O.

D. 23 May wurde ich, J. A. Kulmus von E. Hochfdl Hathe  
 der Stadt Danzig zum Prof. Med. u. Physices Publ. brd.  
 des Gymnasii academici daselbst denominiret, im  
 36sten Jahre meines Alters, an m. ehemal. Lehrers,  
 seel. D. Jo. Glosemeyers Stelle, welche 13 Jahre va-  
 cant gewesen war. D. 28 Jun. wurde d. Intro-  
 duktion mit d. gewönl. Soleñitaeten vollzog.  
 Die Catheder öffnete mir he. D. Abicht als Rector mit  
 e. Oration: De philosophiae naturalis usu in Athe-  
 naeo. Hierauf hielt ich e. Oration: De philosophiae  
 naturalis cum reliquis scientiis cönubio.  
 Nach vollzogener Introduction erkundigte ich mich beij  
 dem zuletzt vor mir introducirt. Hen Prof. Hoheisel,  
 wegen des Capellmeisters, (weil ich vernahm, dz selbig.  
 noch über d. ihm von E. HochEdl. Rathe ausgezahlten  
 20 Rthlr. weg. d. Musik bey d. Introduction noch von  
 mir e. Gratial verlangte), ob gedachter H. Professor  
 ihm solches gegeben, u. wievieles gewesen?  
 Selbiger wusste sich aber (hier ist abgebrochen).  
 D. 6 Jul. wurde ich ab Ampl. Collegio Prof. als Collega  
 recipiret; bey w. Actu ich 1) silentium votorum  
 in collegio proferendoru, 2) adsensum pluralitatis  
 votorum, 3) incrementu gymnasii atq. honorem  
 membroru Collegii Prof. prosequendum, versprach.

Es waren damals  
 nur 6 Professores.  
 Paul Pater, Ma-  
 theseos Prof. Extr.  
 war kurz vor-  
 her gestorben.

## Lectiones bey meinem Antritte:

I. In Curia prima.  
 Die ☿, ante merid. hora 7-8. vacat.  
 8-9. D. Willenberg Historica ex  
 cellarario tractat.  
 9-10. D. Abricht, Theologica ex  
 Königio.  
 post merid. hor. 2-3. Prof. Hoheisel, Hebraica.  
 3-4. Prof. Sartorius, de Eloquentia.  
 Die ☽ mane ab hora 7-8. Ego D. Kulmus, Medica  
 de conservanda sanitate.  
 Reliquarum horaru lectiones erant, uti die ☿  
 mane et a meridie.  
 Die ♃ ante merid. hora 7-8. Ego D. Kulmus, Physicam.  
 8-9. Prof. Schelgwig, Philosophica.  
 9-10. D. Abicht, Disputt. Theol.  
 Die ♁ ante merid. h. 7-8. p. t. vacat.  
 8-9. Prof. Sartorius, de Eloquentia.  
 9-10. Prof. Schelgwig, Philosophica.  
 a merid. h. 2-3. p. t. vacat.  
 3-4. Prof. Hoheisel, Graeca.

Die ♁

- 史料 2 頁
- Die ☽ ante Merid. h. 7-8. vacat. p. t.  
8-9. D. Willenberg, Sicilimenta Juris.  
9-10. Ego D. Kulmus, Physicam.
- a Meridie 2-3. vacat.  
3-4. Prof. Hoheisel, Graeca.
- Die ☾ ante Merid. h. 8-9. D. Willenberg, Sicil. Juris.  
9-10. Prof. Schelgwig, Philosophica.
- II. In Curia Secunda.
- D. ☾ et ☽. hora 7-8. Waschetta, Polonica tractat.  
8-9. Ego D. Kulmus, Physica.  
9-10. Prof. Sartorius, Ovidium.
- N.B. Die ☾ saltem ex mea voluntate, non vero ex necessitate. 2-3. Prof. Schelgwig, Logicam.  
3-4. Prof. Hoheisel, Graeca.
- D. ☽ hora 7-8. Prof. Hoheisel, Hebraica.  
8-10. Prof. Sartorius, corrigit pensa.
- D. ☽ h. 7-8. Waschetta, Polonica.  
8-9. D. Willenberg, Historica.  
9-10. Prof. Sartorius, Rhetorica.
- D. ☽ hora 2-3. Prof. Schelgwig, Logicam.  
3-4. D. Abicht, Theologica.
- D. ☽ hora 7-8. Waschetta, Polonica.  
8-9. Prof. Schelgwig, Logicam.  
9-10. Prof. Sartorius, Ciceronis Orationes.
- D. ☽ hora 2-3. Prof. Hoheisel, Hebraica.  
3-4. D. Abicht, Theologica.
- D. ☽ hora 7-9 Prof. Sartorius corrigit pensa.  
9-10. D. Willenberg, Historica.
- A. 1725. D. 21 Aug. war das Examen publ. Civium Curiae 2dae vor Mittag von 8 bis 12 Uhr. Die gegenwärtig. Herren u. Membra Ampl. Collegii Scholarchalis waren: he. Albr. Groddeck, p. t. burggraf u. Protobibl. He. Gabr. v. Bömeln, Protoscholarcha, u. h. Jo. Sigm. Ferber, Scholarcha. he. Schmieden u. He. Engelle, Scholarchae ex Scabinatu. Wolst, Quartierm. a. d. Coggenquartier. Hosenberg, Patricius a. d. Hohen Quartier. Absentes waren: H. Hosenberg Syndicus, Jac. Focken, Quartierm. a. d. breit. Qu. u. Andr. Hanan, Assesor a. d. Sitscherquartier. N.B. Zu dies. Examine der Secundarorum werd. d. HHn Patroni nomine Rectoris et Professorum: die HHn Professores aber solo nomine Rectoris dh. d. famulum invitirt. D. 22 Aug. war das Examen mit d. Tertianern, Quart. u. Quintanern des Gymnasii: zu welchem Examine die HHn Patroni nomine Rectoris et Professorum sollen invitirt werd.: die HHn Professores aber werd. invitirtet nomine Rectoris et Praeceptorum, u. zwar dh. d. untersten Praeceptorem oder Collegam. Dieses mahl hatte d. älteste Praeceptor, Petroselinus, aus eigener Caprice, auch d. HHn Patronos  
nomine

## 史料 3 頁

A. 1725.

nomine Rectoris et Praeceptorū zu invitiren befohlen, wesweg. er von d.HHn Professoribus billig reprimandiret wurde.

Die Praeceptores in d.classibus inferioribus waren:  
In 3tia classe: Petroselinus u.Hademasch, Hungari.

In 4ta ----- Zützau, Cantor, Pomeranus.

In 5ta ----- Möske, Ausser diesen ist noch d.Schreiber Sch???, der zugleich d.Cnaben im rechnen u.Polnischen examinirte. Discipuli waren sehr wenige: In Tertia 6, in Quarta 4, in Quinta 5.

D. 23 August war Censur u.Translokation. In Curia secunda maiori waren, aus 6 subselliis, 30. In curia minori, aus 3 subselliis, 15.

Kraszinsky, e.Cleinsekundaner, bekam folgende Praedicata in d.Censur: Negligentissimus, petulantissimus, ideoq. incarcerationandus: so bald er aber aus d.Stube kam, wollte er d.Strafe sich nicht unterwerfen u.entwich, wurde demnach propter inobedientiam removirt.

Die Translocandi wurden nicht nach ihrer bisherigen Ordng abgerufen.

Causae certae translocationis in Primam sind: 1) aetas propecta, 2) magna corporis statura, 3) petulantia, qua alii comilitones facile contaminari possent, 4) nimia pigritia cum adulta aetate coniuncta; 5ta causa ante aliquot años accedebat, cum aliquis musicae peritus, nomine Welsah, uxorem ducere voluerit, eius vero sponsa secundano nubere recusaret.

D. 12 Octob. übergab he.Prof. Sartorius s.Rechnung weg. des seit e.Jahre her administrirten Aerarii, in Gegenwart hrn D.Abichts und meiner J.A.Kulmus.

he.D.Willenberg, he.P.Schelgwig, u. Hr P.Hoheisel waren absentes. Deswegen blieb d. Wahl e. Successoris ausgestellt.

D. 16 Oct. colligirte d.Hr Rector hierüber d.vota p.caspulā, dh. folgende Schedulam: S.F. Rationes, quas Dn. noster collega Prof. Sartorius exhibuit, putatae sunt. novus vero administrator, propter quorundam Dnn. Collegarum absentiam, constitui non potuit. Rogo itaq. honoratiss. Dnn. collegas, ut p.suffragia aliquem eligant, qui aerarii curā gerat. Ego meum suffragium suspendo. J.G.Abicht.D.

Non minores mihi, si non graviore sunt causae, cur suffragium meum suspendam. S.F.Willenberg.D.

Suffragat maxima Reverendo Dn.Rectori, ut aerarii curam suscipiat. Jo.Sartorius.

Graviores illae causae, quae Consultiss. Inspectorem, Dnum Collegam honoratiss. movere potuerint, cur suspendat votum, quantū auguror, erit Questio e.pire practico foro in antecessum decidenda; an a duob. collegii membris, tribus absentibus rationes ab aerario et stipendiis a tertio exhibitae possint vocari Ampl. Collegii nomine rati habitone confirmatae? Nulla autem parte mei locum habet dissidentia, neq. est, quod voto meo desim alterutri

## 史料4頁

A, 1725.

utri, qui nominati sunt Ampl:Dn.Collegarú: inprimis cum literis obsignatis conventus publici die soleñi votum meum deposuerim. Suspendam interim hac vice illius declarationem, donec in votando taciturnitatis aut suspensionis causae enumerent. Schelwig

Consultissimo Dno Inspectori votú suum confert. C.L.Hoheisel. Weil also einige von d. HHn Professorib. gar nicht votirt hatten, ging diese schedula d.23 Octob.zum andermahl herum, ud wurde folgendmassen votirt;

Votum supra suspensum hic explicabo: quoniam mihi et Dno Hoheisel, novis Professorib., cura aerarii deman data est, eandem Dn.D.Kulmo conferendam esse iudicat J.G.Abichit.D.

Nondum penetro, quare de novo administratore aerarii nostri consultandum sit, priusquam legitime rationes de nup gesta administratione a Collegio, vel maxima ejus parte approbatae sint, quod nup. non factú esse, prudenter monuit Exc. Dn. Schelvig, ne alias hoc exemplum in malam consuetudinem trahat.: a minori numero posse maiorem superari. Ex hac causa et quod 1) praecedentium Dnn. Administratorú, Schelwigii et Hoheiselii rationes nondum in ordinem redactae, qui, quantum scio, instrumenta, ad has ptinentia, adhuc in manibus suis habent; quod 2) in publ. deposito Bibliotheca libri rationum ut ab antiquo debent, non custodiant., 3) quod mulctae perceptae nondum aerario nostro, cuius cassae illae sunt, illatae, adhuc votum meum suspendo, amice interpellans Honoratiss.Dn.Collegas, ut harú rerú penitioerem mecum curam instituunt. J.F.Willenberg.

Post abortas differentias de consuetudine in exhibendis aerarii rationib., mihi incognita, suffragiú meum Consult.Dno Inspectori reddam. J.A.Kulmus.D. Dn.Prof.Sartorius acerbissima, ut audivi, verba, inprimis ob votum praecedens Dni.Prof.Schelwigii subnectens, suffragium Dno.Rectori denuo contulit. Reliquorum Professorú vota haud pcepi, quoniam schedulam ipsam iam non amplius vidi.

D.29 Oct. schickte d he.Rector e.neue schedulam, d.vota zu colligiren, herum, darífen alle HHn Professoren die vota meiner Wenigkeit zur Administration des Aer.conferirten.

D.11 Dec.war Censura publ.Curiae ldae, u.nach dselb.wurd.d.Inhabitatores Palatii admonirt, auf feuer u.luft mahl acht zu geben, u.d.Preces fleissig zu frequentiren. Es fing.sich auch d.d.Winter über gewöhnl.visitationes Palatii vespertinae wied.an, welche d.HHn Professores u.d.Collegae Class.infer.allematim verricht. Diese Ordng sollte continuirt werd. bis an fastnacht, wie gebräuchl. Es hat aber diese Visitaciones kein einiger von d.HHn Prof.dies.Winter über abgewartet, als ich u.he.Prof.Hoheisel; auch P(?) d.Collegae sehr wenige mahl gegang.

A.1726.

## 史料 5 頁

A. 1726

D. 29 Januar. war Ampl Collegium Prof. vom hen Rectore zusamen gerufen, weg. einer desordre, d. auf dem Palatio vorgefall. zwischen einig. studiosis, Hr D. Willenberg u. he. Pro. Hoheisel waren absentes, A.C.v.Wegher, Eqv. Pom, klagte den Adr. Dilger an, dz dieser ihm über das Auge gefährl. geschlag. wesweg. Dilger auf e. Tag ins Carcer zu gehen condemnirt wurde. Dilger berief sich hierauf, dz dem J.G. Pfenigk, Schleb. Saxoni (e. favorit. von hen D.Abicht) wegen Excessen auf dem Palatio von dem Hen Inspectori vor weniger Zeit dz Carcer wäre zur Strafe dictiret word., hätte aber auf Connivence des Hrn. D.Abicht s. Strafe nicht erlitt., sagte demnach, dz er (als e. Patricius \_\_\_) ja nt geringer als e. Ausländer würde angesehen. word. Wen also Pfenigk s. Strafe würde ausgestand. haben, wollte er sich dselben auch nt entziehen. Weil nun Pfenigk nicht exequirt wurde, so kam dieser auch freij durch.

D. 28 Febr. hielt M.J. Dan. Kikebusch, auf Permission E. HochEdl. Raths e. Disputationem publ. De fallaciis Opticis, demonstrationis mathematicae impedimentis, weil er die vacante Professionem Mathematicam beehrte. Weil ihn aber e. gewiser Opponens extraord. He. M. Hanau, sehr prostituirte, so ward s. Hoffnung dieses mahl zu Wasser. Die ganze Disput. ist sehr schlicht ausgeführt, u. ist in derselben nicht e. einiges Wort de fallaciis opticis gedacht.

D. 28 Martii ward Ampl. Colleg. Prof. convocirt, da den alle membra zugeg. waren, auser hen Prof. Sartorio. Die Ursache war, dz Jo. Jac. Ziau, Cantoris fil. ein neuer Primaner, beschuldigt wurde, er hätte einige Tage vorher in einem öffentl. Weinhause einem Kaufmane, d. er des Abends betrunkenach Hause gebracht, e goldnen Ring vom finger gezogen. u. d. Tag darauf eben demselb. Kaufmane, C. Philipsen, in demselb. Weinhause e. Taschenuhr entwendet, worüber er ertappt word. u. aus dem Hause wäre geprügelt word. Hierüber wurd. alle Primari aufsätzig, und wollt. mit ihm nt frequentiren, stiesen ihn auch nachmals aus dem Auditorio, als Hr Prof. Hoheisel las. Und obgleich d. Hr. Protoscholarcha d. Sache vermittelte, dz der Kaufman zugestunde, er wäre d. Entwendg der Uhr nur zum Scherze geschehen, u. diese gerichtl. verschrieben Aussage d. Student. vorgelesen wurde, wollt. sie ihn dennoch nicht unter sich leid., so beschloßen unter sich, lieber gar nicht zu frequentiren, u. macht. allerleij Pasquillen auf ihn. Ihre gravamina, die sie auf ihn in diesem Conventu Den Professoren schriftl. übergaben, ging. vornehm. dahin: 1) das es Stadtkündig wäre, was weg. d. entwandt. Uhr, ud. s. öffentl. Prostitution mit ihm passiret seij, 2) das Clägere durch sichere

## 史料 6 頁

1726.

sichere Zeug. erweislich. mach. könt., dz Beklagter goldne Ringe beij sich gehabt, u. selbige zu Caufe gestellet- 3) das er sich dh üble Conduite, Besuch verdächtiger Häuser, auch unter dem Gottesdienste, dh Borgen u. Auswind. --- nicht als e. Student aufführe. 4) dz d. fremd. studiosi, w. mensas ambulatorias hätt., in Sorg. stünd., es würd. ihre Patroni, wen dgl. ruchbare Betrügereien u. Diebstäle an Student, nt bestraft würd., sie ebenfalls verdächtig halt., u. ihnen d. Beneficia versag. --Weil nun das sämtl. Colleg. Prof. für rathsam erachtete, d. Sache nt weiter rege zu mach., wurde dem Vater des Beklagt. gerathen, seinen Sohn entwed. auf Universitaeten. od. auf e. anderes Gymnasium zu versend., worauf er ihn über See nach Hamburg geschicket D. 22. Aug Censur d. Translokation: G. L. Krause, d. 18te in. d. Ordnung wurde gar nt abgelesen, weil er nt beim Examine auch beij d. Censur. nicht erschienen. M. Aug. Etliche Tage nach gehaltener Translokation kam J. F. Sartorius, d. 20ste in d. Ordnung, mit e. Supplik beim ganzen Colleg. Prof. privatim ein, darinen er bat, dz er seinen Ort, neben d. vorig. Comilitonibs, wieder occupiren möchte, widrigenfalls würde er velediciren. He. D. Abicht suspendirte s. votum. He D. Willenberg Inspect. consentirte, dz s. Bitte e. Genüg. gescheh, sollte, vornehm. weil des Supplicantis Vater Conrector Scholae tohanitanae seij, u. selibigem, als e. Docent. zum Nachtheile gereiche, wen s. eigner Sohn solche schlechte profectus hätte, dz er desweg. seij degradiret word. (NB. He. D. Willenberg war beij d. Translokation nt zugeg., sonst würde das ganze Colleg. vielleicht auf diese ratione reflektirt haben.) Ich schrieb unter d. Supplik folgendes: Quodsi sententia illa, ex comuni Ampl. Colleg. Prof. suffragio, de loco petentis occupando, nuf suscepta et in translocatione publice denunciata, nunc iteru, secundu supplicantis voluntatem, imutaret., vererer, ne honori et auctoritati Collegii nostri haut parum decederet, et hoc exemplum etiam ab aliis, qui pariter fuerunt postpositi, p eandem viam in consequentiam traheret. qvare has ab rationes ej. desiderio anuere hoc vice neqveo. Hr Prof. Sartorius soll des Hrn D. Willenbergs votum ordentl. refutirt haben, worüber diese beijd. zieml. streitig wurd. Die übrig. HHn Professores sollen mehrentheils, wie ich, hortirt haben. Der Supplikant behielt also s. angewiesenen locum, u. frequentirte weiter.

Weiter ist Kulmi Diarium nicht fortgesetzt.